

Check 2 おうちの安全環境づくり

簡単に取り組めるおうちでの事故予防のための工夫をいくつか紹介します
子どもさんが3歳になるまでは安全な環境を作っておくことが大切です。

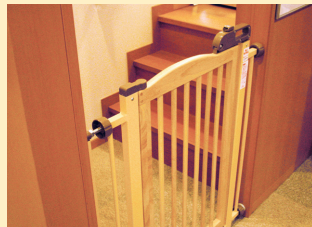
浴槽の中などには、滑り止めシールを

洗い場や浴槽内は濡れていると非常に滑りやすくなっているため、マットやシールを使って滑りにくい環境作りをしましょう。



ハイハイをはじめたら、階段には柵を

ハイハイを始めるのと1人で家の中のあらゆる所に行ってしまう。階段や台所には入れないようにガードしましょう。



扉での手はさみ事故を防ぐ

子どもは隙間などに指を入れてしまい、骨折などを起こすことがあります。牛乳パックを使って手を挟まない工夫を。



ストーブには近づけない工夫を

ストーブにはガードをつけるなど、近づけないようにしましょう。買い換えるなら、オイルヒーターなどの温熱式のものにしたほうが安全です。



これらの工夫はいち小児保健医療総合センター事故予防ハウスに展示してあります。
見学ご希望の方は、保健室へお問い合わせください。

Check 3

これ！これ！
これに
気をつけて

事故予防8つのチェック項目

- その1 誤飲・窒息: 誤飲チェッカーでの確認、口径39ミリ以下の大きさのものは、床面から1メートル以上の高い場所に置く
- その2 気管支異物: 3歳になるまで乾いたピーナッツは食べさせない
- その3 階段からの転落防止: 転落防止の柵をつける
- その4 ベランダからの転落防止: 踏み台となるもの(プランター、新聞の束など)を置かない
- その5 浴槽での溺水: 残り湯はしない、浴室に簡単に入れない工夫
- その6 やけど: 給湯温度の設定、熱源を遠ざける、花火に注意
- その7 自動車の事故: チャイルドシートの使用、車中に乳幼児を1人で放置しない
- その8 自転車の事故: ヘルメットの着用、足のガード、自転車への乗せ方

★子どもの事故予防教室★

内容

事故予防ハウスでの事故予防体験と救急蘇生法の実習など

日時 第3土曜日
午前10時～

場所 あいち小児保健医療総合センター
事故予防ハウス(1階アトリウム)

申し込み

あいち小児保健医療総合センター保健室までお電話ください。

予約制 電話 0562-43-0500(代表) 内線4042

みなさまのご参加お待ちしております



たいせつな笑顔を守る
3つのチェック

子どもの事故予防 わたしたちができること



事故は“全く予測ができない”と以前は考えられていましたが、最近では子どもの事故においては、予防可能な事故が多くあるとわかってきました。

子どもの事故を予防するために出来ること
＝親が目を離しても安心な安全環境をつくること

わが子を事故から守るために自分たちで出来ることは何なのか？一緒に考えていきましょう。

年齢別にみた死亡順位 愛知県(2009～2013年の集計)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
年齢	死因	死亡数 割合	死因	死亡数 割合	死因	死亡数 割合	死因	死亡数 割合	死因	死亡数 割合
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	302人 38.4%	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	109人 13.9%	不慮の事故	43人 5.5%	心疾患	35人 4.4%	乳幼児突然死症候群	32人 4.1%
1～4歳	先天奇形、変形及び染色体異常	63人 22.3%	不慮の事故	41人 14.5%	悪性新生物	25人 8.8%	肺炎	20人 7.1%	腸管感染症	16人 5.7%
5～9歳	不慮の事故	42人 26.8%	悪性新生物	31人 19.7%	その他の新生物	9人 5.7%	心疾患	8人 5.1%		
10～14歳	不慮の事故	37人 20.0%	悪性新生物	36人 19.5%	自殺	25人 13.5%	心疾患	14人 7.6%	その他の新生物	7人 3.8%

愛知県では、どの年代の子ども(0～14歳)の死因にも、上位3位までに不慮の事故があります。

現在の我が国においては、子どもの事故を予防することが緊急の課題になっており、21世紀における母子保健の国民運動計画である「健やか親子21(第2次)」や、愛知県の子ども・子育てに関する総合計画「あいちはぐみんプラン2015-2019」においても「子どもの事故予防」が掲げられています。

不慮の事故はこんなところにかくれている

今、目の前にいる子どもの周りを見回して見てください。
 ここでは、年齢や状況別に不慮の事故をがどんなところにかくれているかを紹介します。とくに、家庭や家庭を取り巻く環境の中で、どこでどんな事故が起きやすいかを学んでみましょう。
 乳児期や幼児期の前半は、親や家族が安全な環境を作ることが必要です。成長にともなって少しずつ危険なもののがわかるようになってきたら繰り返し安全教育をしていくことが大切になってきます。

1歳まで（ねがえりからつかまり立ちの時期）

1歳までは居間での事故が多発!!

とくに誤飲や窒息の事故に注意が必要です。直径39mmより小さいものは子どもの手の届かない1m以上の高さの所に片付けましょう。（薬、化粧品、洗剤、コイン、おもちゃ、アクセサリー、豆、あめ玉、ティッシュペーパー、ビニール等）

タバコの誤飲事故が多い

リビングでの危険

台所ではやけどの事故が多い!

やけどの原因となる熱源がたくさんあります。台所には簡単に入れないように柵をつけたり、熱くなる物は手の届かない高さの所に置きましょう。

浴室での危険

誤飲 やけど おぼれ 転落

転落 けが

階段での危険

溺れの事故は危険度が高い!

小さい子どもがいる家庭では浴槽に残し湯をしないこと、浴室には簡単に入れない工夫を。ハイハイができるようになると階段からの転落事故が。階段には上り口と降り口に柵をつけるなどの対策をしましょう。

Check 1

あれ!アレ!
あれこれ
あぶないヨ!

年齢別にみる不慮の事故

1歳から3歳くらいまで（歩きまわる時期）

少しずつ行動範囲が広がり、屋内から屋外へと事故が起こる範囲も広がります。屋内では窓やベランダからの転落事故や浴室での溺れの事故など起こります。浴槽に残し湯をしないこと、ベランダには1人では出られないようにする、踏み台となる物を置かない等の工夫をしましょう。また、おはしやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま、走らせないようにしましょう。

駐車場での危険

やけど 転倒 熱中症 けが 交通事故

ベランダでの危険

転落 けが

道路での危険

交通事故 転倒 けが

おもちゃでの危険

誤飲

けが

おぼれ

窒息

駐車場での事故や自動車同乗中の事故が多く起きています。

チャイルドシートの着用は大人のシートベルトと同じように習慣づけが大切です。

夏にはプール遊びや花火などの遊び道具でのけがが多くなります。必ず、大人がついているようにし、安全な遊び方を教えましょう。

3歳から6歳くらいまで（社会参加の時期）

自動車での危険

交通事故 転倒 けが

道路・歩行中での危険

交通事故 転倒 転落

道路での危険

自動車同乗中の事故だけでなく飛び出しなどの道路での事故も増えるので交通ルールを教えたり、自転車は車の通らない所で乗るように指導することが大切です。

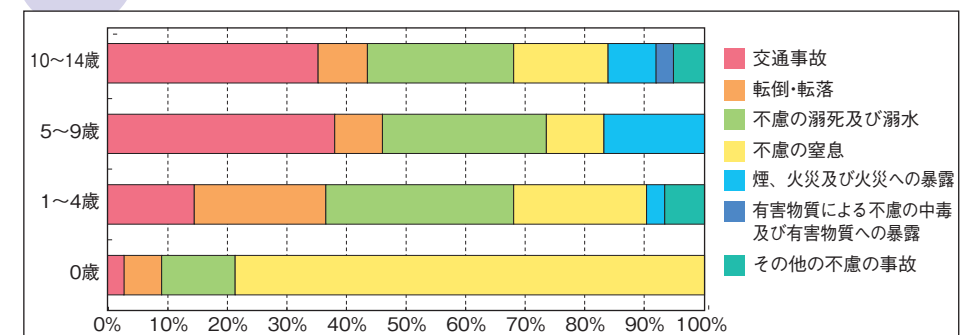
遊具の安全な遊び方を教えたり、遊びのルールを決め守らせたりなど危険なことを普段の遊びの中で学習することが大切です。遊ぶ時はひもやフードのついた服、肩かけカバンは身に付けないようにしましょう。

公園遊具での危険

はさむ 転倒 転落

刺され

年齢別の不慮の事故による死亡原因（愛知県 2009～2013）



愛知県でも、不慮の事故による死亡原因を年齢別にみると、0歳児では不慮の窒息が圧倒的に多く、1～4歳、5～9歳では不慮の溺水の多いのが特徴的です。交通事故による死亡数は年齢とともに増加しています。その背景には、年齢とともに広がってゆく子どもの生活様式の変化があります。乳幼児においては、家庭内での事故予防が大切です。